

宮沢賢治と Iris Murdoch

室谷洋三

宮沢賢治と Iris Murdoch は作品の面でも経歴上でも類似していて共通性が見られる。二つのものが類似していることを立証するには両者を直接的に比較対照する方法と第三者を媒体として論ずる方法とがある。本論では両方法を採用した。前者では宮沢賢治の辞世の詩「アメニモマケズ」と Iris Murdoch の最後の作品 *Jackson's Dilemma* を比較し、両者がデクノボウのような人物を賞賛していることを指摘している。後者については、インドの詩人 Rabindranath Tagore が両者に深い影響を与えていることを指摘している。そのため、本論では宮沢賢治、Iris Murdoch 以上に Tagore について語られている。Murdoch はケンブリッジの大学院生時代から Tagore に心酔していた。実際 Tagore の最も重要な作品3編 (*Gitanjali*, *The King of the Dark Chamber*, *My Reminiscences*) を読了している。一方、賢治は妹トシの援助を得て詩を読んだ。彼は高等農学校の英語の時間に Tagore の詩をテキストとして用い、自ら詩を暗唱し学生達にも暗唱させたとい

う。(Wittgenstein もケンブリッジ時代、このようなことをしていたといわれている。) それらの詩は *Deliverance*, *Give Me Strength*, *Awakening of the Waterfall* であった。これらの詩は Tagore が設立した学校の校門に掲げられている次の文章と共に彼の人生観を最もよく示すものである。「この静かなる住居においては、あらゆる人がブラフマンの瞑想に努める義務がある。実にここでは無双にして唯一なるブラフマンをこそ瞑想すべし。伝統的に習慣とされてきた神像、人間、獣、鳥、像を拝んではならない。また、火を燃やして(ヴェーダ聖典が定めるような) 献供を行ってはならない。(バラモン教の) 祭りの規定の実行をめざして、あるいは自分の腹の(食欲) のためにいかなる生き物をも殺してはならない。肉や飲酒を避けよかし。」賢治、Murdoch の宗教の重層性、さらに万物平等、博愛主義の思想の源泉はここにある。Tagore が両者の類似性の根底にあるというのが本研究発表の骨子である。

(会員)